

○令和3年6月に千葉県八街市で発生した小学生5名が死傷する交通事故を受け、全国の小学校の通学路を対象とした合同点検を実施

○合同点検の結果および対策の進捗状況は以下のとおり(道路管理者分)(R6年3月末時点)

- ・対策必要箇所数：39,052 箇所
- ・対策済箇所数：35,025 箇所(約90%)
- ・対策済箇所数(暫定的な安全対策含む)：39,052 箇所(100%)

【道路管理者による対策必要箇所数等の内訳】

(R6年3月末時点)

対策内容	対策必要箇所数	対策済み箇所数 〔下段:暫定的な安全対策を含む〕
歩道の整備・交差点改良等	約 6,600箇所	約 3,300箇所(約 50%) 約 6,600箇所(100%)
防護柵・狭さくの設置等	約 2,500箇所	約 2,300箇所(約 92%) 約 2,500箇所(100%)
区画線の設置・カラー舗装等	約 26,000箇所	約 25,600箇所(約 98%) 約 26,000箇所(100%)
その他(樹木の伐採等)	約 4,000箇所	約 3,800箇所(約 95%) 約 4,000箇所(100%)

【道路管理者による対策の例】

●歩道の整備



●防護柵の設置等



●路肩カラー舗装



《暫定的な安全対策の例》

●注意喚起看板の設置

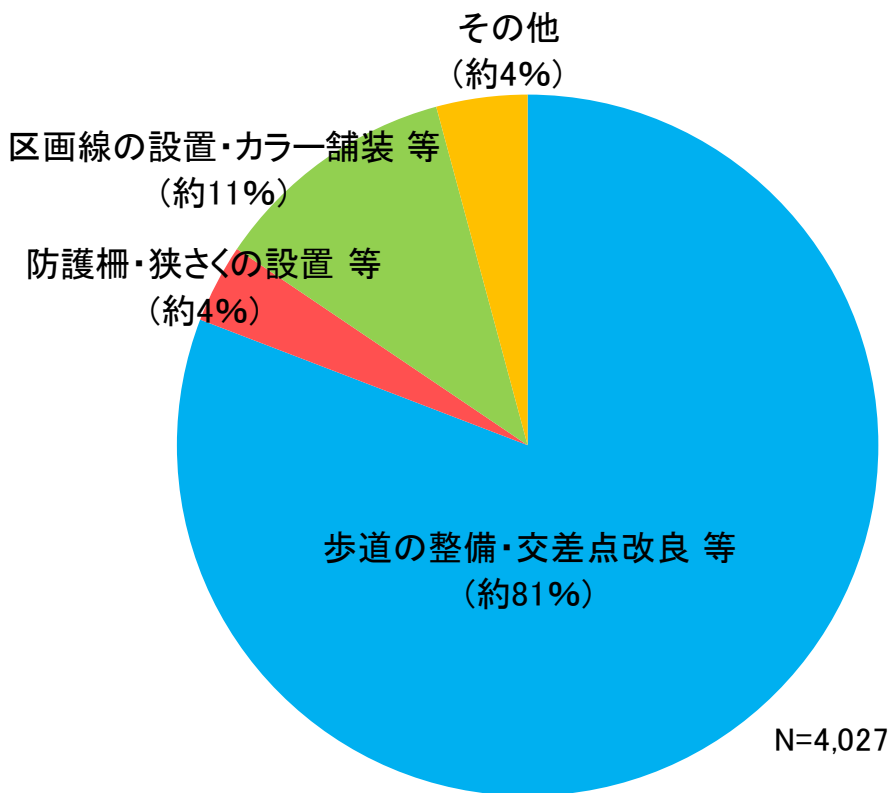


令和3年度通学路合同点検の対策未了箇所について(道路管理者分)

令和6年3月末時点

- R6年3月末時点で、道路管理者による対策必要箇所39,052箇所のうち、35,025箇所(約90%)で対策実施済(暫定的な安全対策も含めると39,052箇所(100%)で実施済)
- 本格的な対策が完了していない4,027箇所(約10%)における対策内容は、歩道整備・交差点改良など、事業に一定の期間を要する対策が約8割を占める
- 対策が長期化している主たる理由は「用地買収が難航」が約3割、「事業実施に必要な予算が不足」が約2割、「関係機関や地域住民との合意形成」が約1割を占める

対策未了箇所の内訳(R6年3月末時点)



対策未了箇所において対策が長期化している主たる理由

- 用地買収が難航: 約29%
- 事業実施に必要な予算が不足: 約24%
- 関係機関や地域住民との合意形成: 約13%
- 他のインフラ事業と事業実施時期を調整: 約10%
- その他: 約25%
 - 例: ・事業主体の土木技術者不足
 - ・災害対応などの他事業を優先
 - ・事業着手後に当初予見できなかった事象が発生(埋蔵文化財調査、地盤沈下等)

※各道路管理者への調査による